理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町９４８－１

千教研　理科研究発表大会を終えて

印教研理科研究部長　牧野　隆

印旛の理科研究部が総力を結集して取り組んだ第三十回千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会（印旛大会）が、好天に恵まれた去る十月二十日、県下各地から四〇〇名を越す会員の参加を得て盛会の内に多大な成果を納め終了することができました。

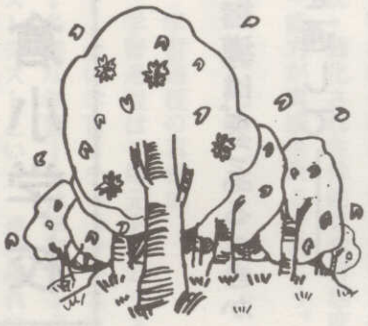
会場校佐倉小・中学校においては、これからの理科教育の在り方について方向づけを示唆する授業展開及び研究発表がなされ、子供たちの生き生きとした学習活動が展開されました。午後の研究発表においては、県下各地から日頃の研究実践の累積に基づく数多くの実践事例が提案され、充実した研究協議がなされました。

新しい学力観に貫かれた学習指導要領が小・中とも実施の運びとなり、学校週五日制が導入されました。各学校とも多くの課題を抱える中、新しい理科教育の在り方を求めて努力を重ねる同志諸先生方が大勢おられることは誠に心強く、今次第三十会研究発表大会がこれからの千葉県の理科教育進展に大いに寄与するものと確信いたします。

記念講演では、東京大学地震研究所教授藤井敏嗣先生による「地球進化とマグマ」と題したご講演をいただきました。最近の火山噴火や地震発生の事例を上げながら、地球の進化に果たしたマグマの役割について詳細な説明がなされ、理科教育に携わる我々の認識を変革させるに充分なお話であったと思います。

本大会は、私ども印旛支部にとりましては十六年ぶりの大事業となり、組織の全勢力を結集して成功を期しました。特に会場校佐倉小・中学校の先生方には、授業展開や研究発表などを通してすばらしい成果を県下に披露していただきました。また、印旛地区教育研究会ならびに佐倉市教育委員会には、本大会の趣旨・目的をご理解いただき、絶大なるご後援をいただきました。大会の運営に直接当たりました理科研究部役員ならびに協力員の方々には、大変お骨折りをおかけしました。本大会の運営に様々な角度からご支援ご協力をいただきました関係各位に、この紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

記念すべき第三十回千葉県理科教育研究発表が印旛で開催されたことを契機に、印旛の理科教育が更なる発展を遂げることを確信しつつ本誌をお届けし、報告と御礼に換えさせていただきます。



会場校長あいさつ

佐倉小学校

校長　藤江　徳也

この度の第三十回千教研理科教育部会研究発表大会に際しては、郡内はもとより県内各地から多数の先生方にご参加いただき、またご指導をいただきありがとうございました。

本校は平成四年度より佐倉市教育委員会から「社会科・理科・生活科」の研究指定をいただき、研修を進めておりました。ちょうどその折に千教研理科教育部会の公開研究会場校としてのお話があり、この機会にさらに研修を積み重ね、多くの先生方にご指導を仰ぐことは、一人ひとりの教師にとってこの上ないチャンスと考えた次第です。

本校の研究を進めていくに当っては、授業研究や指導案検討などにおいて、教育庁印旛地方出張所指導主事高橋正昭先生、四街道市立中央小学校五味校長先生をはじめとし、印教研理科研究部の先生方のご指導をいただくことができました。誠にありがとうございました。さらに大会当日まで、会の運営にご尽力くださいました研究部の関係の先生方には感謝申し上げる次第です。

おかげ様で昨年十月二十日の公開研究会では、生活科四学級、理科八学級、特殊学級一学級の授業展開を、また本校の研究発表をさせていただき、新しい学力観に基づき本校として取り組んで参った提案をさせていただきました。まだまだ拙いものでありましたが、今後なお一層努力を積み重ね、未来に生きる児童の育成に努めたいと考えております。今後とも先生方のご支援ご指導をお願いして御礼の言葉とさせていただきます。

佐倉中学校

校長　山本　巌

千教研理科教育部会の研究発表大会は、県部会の年間における事業で最大のものであります。この大会が、十六年ぶりにここ印旛地区に回って参りましたが、印教研理科研究部員皆様の献身的なご尽力によって、大きな成功を収めて終了できましたことはご同慶に絶えません。

中学校部門と全体会場を担当しました本校にとりましては、何よりも印教研理科研究部からこうした機会と場を本校に与えて下さったことに感謝しております。初めの頃を思い起こしますと、研究内容や授業公開、どれ一つとりましてもお引き受けできる自信は、正直なところ、そのかけらすらありませんでした。しかし、本校理科研究部の職員が、これに取り組もうと決意してくれたこと、そして印教研理科研究部が全面的に協力、支援して下さるとの意気込みに支えられたこと、これらの二つが会場校引き受けの大きな力となって、スタートできたように思います。

思えば、その後は実行委員会、度重なる事務局会議、直接本校の研究や公開授業づくりに指導・助言をいただいた研究協力員の方、そして数多くの運営協力委員の先生方、大変お世話になりました。

いずれの機会も、勤務時間外の仕事となり、まさにボランティア精神に支えられた取り組みでした。私たち本校職員はこうした姿に感服し、会場校としての責任を改めて自覚させられ、同時に大きな励みともなって仕事ができました。

ご期待に十分お応えできずに終わったかとは思いますがお許し下さい。印教研理科研究部の力に感謝し、心から御礼申し上げます。